

「第2期大崎市水道ビジョン（案）」に係るパブリックコメントの結果について

「第2期大崎市水道ビジョン（案）」について実施したパブリックコメントの結果は、次のとおりでした。

- (1) 実施期間 令和3年11月2日（火）から令和3年11月22日（月）まで
- (2) 実施結果 意見提出者数 2人 件数 13件
- (3) ご意見とその回答

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
1	全体として	<p>大崎市の紹介ではなく、水道ビジョンであるので、簡潔に要点もまとめて示すことが必要である。頁数では本来 20 枚程度で整理する方が分かりやすい。</p> <p>特に大崎市の報告関係印刷物は枚数が多く、読む側に伝わらない。</p> <p>文章は簡潔簡素で印刷費用や枚数を減らすことこそ、SDGs に添う行政であることを理解いただく。あえて、17 項目に文字をはめ込める必要もなく、関係する部分と全体的な解説に留めること。</p>	<p>水道ビジョンの作成にあたりましては、厚生労働省より「「水道事業ビジョン」作成の手引き」（平成 26 年 3 月 19 日厚生労働省健康局水道課長通達）により、記載すべき基本的な事項として想定される内容として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 水道事業の現状評価・課題 ② 将来の事業環境 ③ 地域の水道の理想像と目標設定 ④ 推進する実現方策 ⑤ 検討の進め方とフォローアップ <p>が示されております。</p> <p>これらの内容を表すことによりまして、一定程度のページ数が必要でありますことから現在のボリュームとして作成したところであります。</p> <p>また、SDGs につきましても、後段の実施方策にマークを示したところではありますが、その内容を表すために必要最小限の内容として記載したものであります。</p>

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
1	第1章	<p>施策体系等の内容は、簡単に示し、経年による方向性だけで済む。</p>	<p>第1期大崎市水道ビジョンの振り返りとして、これまでの取組みを表すため、一定程度の記載は必要であると捉えており、表として取りまとめたものであります。</p>
		<p>むしろ、平成30年の水道法の一部改正で義務化されたガイドラインに対する取組みにおいて、構造物の点検頻度、管路の修繕記録等の報告事例などを示しながら、日々の業務内容に対する理解、今後の問題点を述べて、事業者への理解を進める内容にすべき。日常業務正しく報告することが大切だ。</p>	<p>第7章の7.2強靱におきまして、施設の適切な維持管理と計画的な更新において、主な取組として維持管理の充実に努めることとしており、「日常の運転管理や点検を通じて施設の状況を的確に把握し、浄水施設設備や配水施設設備の計画的な補修・修繕に取り組み、施設の延命化を図っていきます。」と記載しております。</p>
	第2章	<p>大崎市の概要を手短かに。気象、降水量の表があるが、これから何を述べたいのか書いていないことから不要。人口の推移は表になくとも良いし、年齢構成の表の出典理由が不明。災害風水害状況も、大まかな状況説明と懸念で済む。</p>	<p>大崎市の概況につきましては、水道事業において気候の状況や人口状況により水道使用料について変動がありますことから記載しているものであり、年齢構成の表につきましては、大崎市統計書（令和2年度版）の21ページにあります「図4 大崎市の年齢（3区分）別人口割合の推移」が出典となります。</p> <p>災害風水害状況につきましても、後段に記載しております第7章の7.2強靱におきまして、応急給水・応急復旧体制の充実に際して、応急給水体制の充実や応急復旧体制の充実に記載するにあたり、これまでの災害の状況を表すことによりどのような状況であり、その対応を表す意味においても必要な内容との認識から記載しているものであります。</p>

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
1	第3章	<p>大崎市合併後の事業説明で済む。歴史を述べるものでないので簡潔に。沿革の表は参考資料の表で済む</p>	<p>大崎市水道の事業の歴史は古く、上水道としては明治17年に当時の古川において設置され、県内最古、日本でも横浜市について2番目といわれ、当時といたしましては画期的な浄水方式が採用された水道でありました。また、経済の発展とともに水道事業につきましても大崎市合併以前より各地域において拡張し、現在の市民生活を支える重要なインフラでありますことから、これまでの水道事業の歴史を表すことも重要な事項であるとの認識により記載しているものであります。</p>
		<p>15P・16pの写真は古い。画像も不明瞭であることから差し替える。水源等の図面も、コピペで古い。このような状況で、CPS/IoTなどのトップランナーチャレンジやDXは出来ないのではないのか。古い画像は差し替え。</p>	<p>今般の策定にあたり15ページ、16ページに記載しております各施設の写真につきましては、新たに撮り直した画像を記載しております。</p>
	第4章	<p>水道に関する現状の評価は一定の理解は出来る。その上で課題も記されているが、今度どのような施策や対応が必要かの方向性が示されていない。</p> <p>ビジョンなら、一定の取り組みや目標を書いた方が良い。</p> <p>各章における考察と対応姿勢を記載すること。</p> <p>特に、改正法による、責任義務上の点検等の維持管理についての見解と予想は明確にし、業務への評価の理解を得る内容にすること。</p>	<p>今後の方策につきましては、後段の第6章目指すべき水道の理想像において、「未来へつなぐおおさき恵みの水」を基本理念に掲げ、「安全」「強靱」「持続」の3つの基本方針を定め、それぞれ実施方策を定めたところであります。</p> <p>さらに、第7章理想像の実現に向けてにおきまして、各基本方針に係る実施方策と主な取組を記載しております。</p>

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
1	第5章	25Pの人口統計は内閣府が国として示したもので、大崎市のビジョンで示す資料ではないので、簡潔に現状を記載し、今後の予想値を表すだけでよい。	人口減少に係る状況や見通しにつきましては、水道事業において将来の水道料金収入に影響を及ぼす重要な要素でありますことから、最初に日本全体の将来人口推計、あわせて大崎市の実績と予測値、それに続く有収水量の減少を表し、将来の事業環境として表す資料として記載しているものであります。
	第5章	28Pについても、改正に伴う基本理念に基づいて、信頼も未来に繋げていく水道事業とする内容で完結。各項の、なります調は、第三者的であり、現状からの危機感が乏しく感じる文面となっている。よって、ビジョンでは1つでもよいので具体的に、日々の問題点を共有し…していくとか。定期的な点検でも、内容を職員間で共有し理解を深めるミーティングを進めるとか。が、あると良い。	第5章将来の事業環境におきましては、外部や内部の環境の変化を表す内容として作成しており、今後の方針や実施施策、取組内容につきましては第6章や第7章に内容を記載しておりますが、第7章の7. 2強靱の主な取組のうち、①維持管理の充実の文中に、「委託業者及び職員間の報告・連絡を密にし、情報共有を図ったうえで」を追記いたします。
	第6章	基本理念は崇高であるが、施策体系は国の示した目標と方策を羅列したに過ぎず、いつの間にか、SDGsの参考ビジョンに替わっている。 34Pは、関連のパネルなので第7章で十分だと思うので32, 34pは省略。	現在大崎市におきまして各種計画を策定しておりますが、SDGsにつきましては関連する目標を取り入れながら事業を推進することにより、SDGsの達成にも貢献することから積極的に取り入れることとしております。 SDGsにつきましても、後段の実施方策にマークを示したところではありますが、その内容を表すために34ページに必要最小限の内容として記載したものであります。

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
1	第7章	<p>全体的によく説明できていて、写真も良い。ただし、これは、水道事業のパンフレットとして活用して、ビジョンでは要約して方が分かりやすい。</p> <p>鳴瀬川から、今後鳴子ダムの利用に変えることの考えや、伴う検討を進めたりしてはいないのか。</p>	<p>第7章におきましては、今回策定します水道ビジョンの根幹の部分でありますことから、わかりやすい内容となるよう努めたところであります。要約した方がわかりやすいとのご意見であります。現在水道ビジョンの概要版を作成しており、そちらにおいて全体の要約としてまとめることとしております。</p> <p>また、鳴瀬川から、今後鳴子ダムの利用に変えることの考えにつきましては、大規模な施設の新設が伴うことから、現時点におきまして特段の検討は行っていない状況であります。</p>
	第8章	<p>大崎市得意のPDCAサイクルが出されているが、どのくらいの頻度でサイクルを回転させるのか。例えば、点検項目等では5年、1年、毎月、毎日のものもあるが、その解析と整理を記録する必要もある。外部機関での点検監査は聞いたことがない。これでは、実効性に欠くこともあるので、時には、OODAサイクルでの対応も用意すべきではないのか。</p>	<p>事業進捗の手法としてPDCAサイクルを活用することとしておりますが、点検方法として部内での検証を行い、その後議会建設常任委員会や上下水道事業運営審議会への報告し、様々な意見を頂きながら継続的な改善に取り組むこととします。</p> <p>また、OODAは、Observe（観察）・Orient（状況判断）・Decide（意思決定）・Act（実行）の頭文字4つで構成され、製造業の現場などで用いられる手法との理解であります。今回の水道ビジョンにおきましては、外部によるチェックが重要と捉えておりますことから、基本PDCAサイクルでの取り組みで考えているところであります。</p>

番号	項目またはページ数	ご意見の内容	回答内容
2	P30 5. 2 内部環境 の変化 P37 7. 2 強靱～災 害に強い水 道 P40 7. 3 持続～将 来へつなぐ 持続可能な 水道	<p>今後の水道事業の展開に当たっては、給水人口の減少、施設の老朽化の進行の中で、どのような基準で優先度を決め事業を進めていくかが住民の理解を得ていく上で極めて重要な取り組みになると考えます。</p> <p>そのためには、このビジョンは抽象的な表現としては、非の打ちどころはありませんが、住民が議論するためのデータが欠けているのではないかとおもいます。私が添付してある付属データを見つけられなかったのであれば指摘をお許し下さい。</p> <p>そのためには、5. 2内部環境の変化の(1)水道施設の老朽化、(3)水道職員の状況を踏まえ、7. 2強靱～災害に強い水道及び7. 3持続～将来へつなぐ持続可能な水道の項について次のような補強が必要ではないかと思えます。</p> <p>1 7. 2強靱～災害に強い水道の②老朽化施設設備の計画的な更新及び③管路施設の更新・設備に人口減少、老朽施設箇所には偏頗性があることから、給水人口単位と老朽化度を考慮し、どのような基準に基づき地域ごとに、更新基準、更新見込み年を提示する必要があるのではないか。</p>	<p>現在、第2期水道ビジョンの作成とあわせて、水道事業経営戦略の改定につきましても作業を進めております。水道ビジョンにつきましては将来の目指すべき未来・将来の方向性を示し、今後の事業運営の取り組むべき基本構想として位置づけており、経営戦略につきましては、水道ビジョンの基本理念を実現し、将来にわたって持続可能な事業運営を行うための計画として位置づけております。</p> <p>このうち、施設や管路の更新基準につきましては経営戦略に記載することとしております。</p> <p>例といたしまして、管路の更新基準のうち導・送水管の鋳鉄管（ダグタイル鋳鉄管を含まない）については、60年としております。この更新基準につきましては地域ごとについては示しておりませんが、適切な維持管理に努め延命化を図ったうえで、経過年数や漏水頻度により計画的な更新に努めてまいります。</p> <p>また、人口減少により水需要の減少も予測されることから、適正な施設規模へのダウンサイジングを検討し施設更新を行ってまいります。</p>

番号	項目または ページ数	ご意見の内容	回答内容
2		<p>2 給水人口の減少―販売収入減、施設更新の拡大―支出増という環境の中でビジョンに示された包括的委託業務が拡大していくと思われませんが、その業務内容と割合、収入減と包括的委託業務の拡大等の支出削減の取り組みの結果としての水道料金の見通しについてシミュレーション結果を示してほしい。</p>	<p>水道料金の見通しにつきましては、経営戦略におきまして料金収入の見通しとして令和13年度までの給水収益の推移を表すこととしております。</p> <p>水道料金につきましては、人口減少にともなう水量の減少による減収が見込まれておりますが、基本料金と従量料金の二部料金制等の見直しも視野に入れ検討を進める必要があることを記載しております。</p> <p>あわせて、令和13年度までの投資・財政計画や水道施設の更新予定年度と事業費及び財源、その他各種データなど水道事業の継続に必要な数値など、詳細な数値を記載することとしておりますことから、水道ビジョンにおいては記載していないところであります。</p>